

尾張旭市新水道ビジョン 概要版

【計画期間：平成30年度（2018年度）～平成39年度（2027年度）】

1 はじめに

(1) 策定の趣旨

本市の水道事業は、昭和37年1月に、計画給水人口11,800人、計画1日最大給水量1,770m³/日で給水を開始し、平成28年度末における給水人口は82,980人、1日最大給水量は25,613m³/日となっています。

近年、水道を取り巻く環境は、少子化による人口減少や創設期に建設した施設の老朽化に伴う更新需要の増加、地震に対する対応等大きな変化を迎えています。

本市は、「安全で安心な水道事業を未来へ継承する」を基本理念とした「尾張旭市水道ビジョン」を平成20年3月に策定しました。

この度、厚生労働省より「新水道ビジョン」が発表されたこと、「尾張旭市水道ビジョン」策定から10年が経過したこと等から本計画の見直しを行い、より有効的な計画を立案し、目標を達成するため、現時点での進捗と課題を明らかにし、今後の目指すべき姿や具体的な施策を示す「尾張旭市新水道ビジョン」を策定しました。

(2) 策定の位置付け

「尾張旭市新水道ビジョン」は、市の上位計画で掲げる施策の実現を図るとともに、国の「新水道ビジョン」が目指す将来像の実現のため、現在遂行している計画「尾張旭市水道ビジョン」(前水道ビジョン)との整合にも留意を図り再検討を行い、水道事業者としての役割分担を考慮し、地域性を踏まえた取組施策の展開を図ります(図-1参照)。

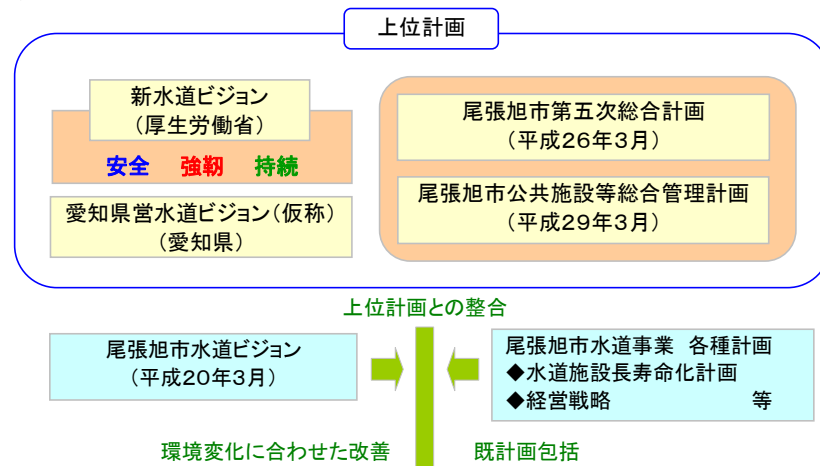


図-1 新水道ビジョンの位置付け

2 本市水道事業の現状と課題

(1) 将来の事業環境

① 人口及び給水量の減少

給水人口及び給水量共に、今後減少に転じ、平成39年度(2027年度)には給水人口81,500人程度、1日最大給水量は25,200m³/日程度と予想されます(図-2参照)。

② 地震の被害

県内に被害を及ぼす可能性のある「南海トラフ地震」が発生した場合、水道配水管の被害は1km当たり0.667か所と兵庫県南部地震時の西宮市程度の被害を受けると想定されます。早急に、地震により被害を受ける可能性が高い老朽化した塩化ビニル管の更新を行う必要があります。

③ 施設の老朽化

創設当初の施設は50年を超え、初期整備のピークである昭和45～47年に布設した管路は法定耐用年数の40年を超えています。保有する施設の老朽化に伴う大量更新期の到来に対応するため、今後、多額な投資をしていく必要があります。

④ 料金収入(給水収益)の見込み

料金収入(給水収益)は、料金の改定を想定しない場合、給水人口の推計に伴い、減少していくと見込まれます。

新水道ビジョンの計画期間における水道料金の改定は予定していませんが、料金収入(給水収益)の減少により、将来的な事業環境は現在よりも厳しいものとなっていくことが見込まれます。

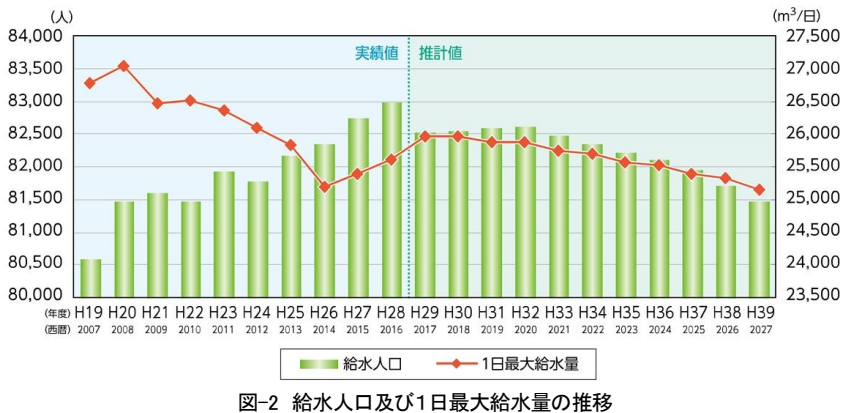


図-2 給水人口及び1日最大給水量の推移

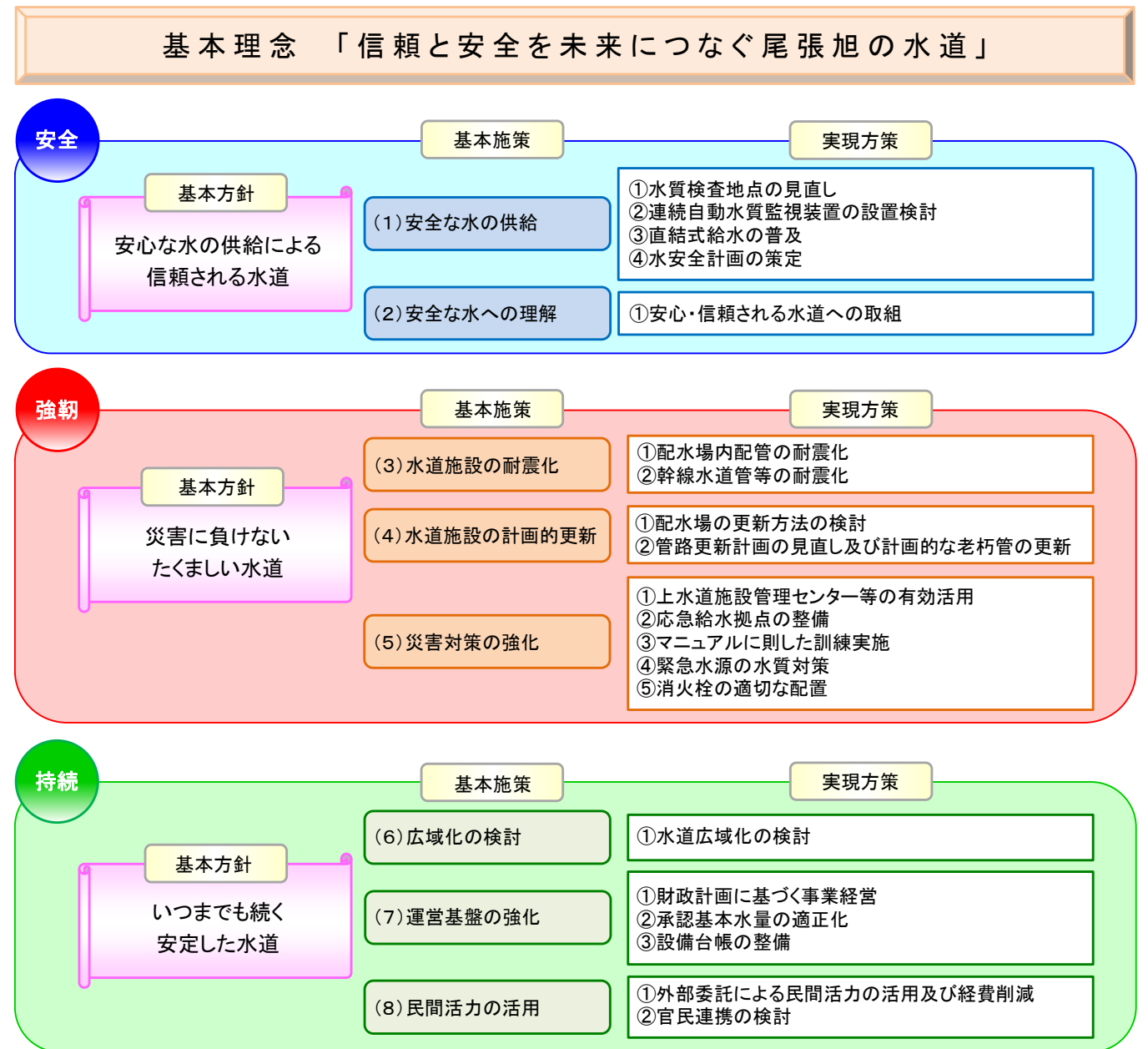
(2) 前水道ビジョンの進捗状況と課題の整理

前水道ビジョンにて掲げた具体的な実現方策について現況での進捗状況と課題を整理し、前述した将来の事業環境を踏まえて新水道ビジョンにおける実現方策を整理しました。

3 基本理念・基本方針・実現方策

水道事業者の責務である安全で安心できる水の安定供給を次の世代に引き継いでいくため、「尾張旭市新水道ビジョン」では、以下に示す基本理念に基づき水道事業を運営します。

また、基本理念を実現するため、厚生労働省による「新水道ビジョン」が示す「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点に基づき定めた基本方針や、水道事業の現状と課題や将来の事業環境に対する新たな課題を踏まえ、実現方策を推進していきます。



4 フォローアップ

「PDCAサイクル」を経ることにより、当初計画の目標や実現方策の推進に伴う問題点、実現方策の有効性などを確認しながら、必要に応じて見直し、修正を行う予定です。